



読み聞かせの効果

教育長 津野庄一郎

「本は値段が高く、人からもらったり、買っていただいたりすることが多いので、一緒に今日選んでもらうことができて良かった。親子が触れ合うきっかけは大事なので、少しでも時間をつくって読んであげたいです。」これは、関川村ブックスタート事業に参加されたお母さんの声です。ボランティアの石山キンさんが絵本をかざして読み聞かせを始めると「はじめ眠そうにしていた赤ちゃんは、途中からとても喜んで聴いていました。」との報告がありました。

関川村の「ブックスタート事業」（教育課・生涯学習班：須貝佳苗）は、1年に5回、健康福祉課が実施する乳児相談（10・11か月児）の折りに、親子対象で30分程度、本事業の趣旨説明と絵本の読み聞かせをして、お気に入りの絵本を一冊贈呈する取り組みを行っています。コロナ禍を契機に取りやめた自治体もあるようですが、本村では20年余り続けられ、子育てを支える一助としています。

脳科学者の川島隆太さんは、共同研究の結果、親子による絵本の読み聞かせの効果を次のように述べています。

- ◇ 母親のストレスが減少する（子どもの心が安定するため）
- ◇ 読み聞かせをするほど言語発達（言葉の数と聞く力）は促進される
- ◇ 子どもの問題行動（不安や抑うつ）が減少する

読み聞かせは、親子の愛着形成を促し、子どもの心を安定させる効果があるばかりでなく、読み聞かせている親の脳にも良い影響を与えていることが分かります。「子育てを楽にしたければスマホよりも本を！」という理由もこの辺にありそうです。親が読み聞かせを楽しむことを通して、子どもが文字認識を深め、表現力を高めていく。それが自ら本を読み、感性を磨き、学力を身に付けていくことにつながる。関川村公民館図書室にもたくさん絵本がありますので、大いに利用して欲しいものです。

【写真】11月（4回目）に読み聞かせした絵本